

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月20日現在

機関番号：17201

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520254

研究課題名（和文）アメリカ文学に見る階級-お金と人種が織りなす格差

研究課題名（英文）Class in American Literature: Stratification by Money and Race

研究代表者

早瀬 博範 (Hironori Hayase)

佐賀大学・文化教育学部・教授

研究者番号：70173052

研究成果の概要（和文）：

本研究は、アメリカの文学において、階級というテーマがどのように扱われてきたか、更にそこから見える作家の階級意識の解明を目的としている。アメリカ社会では、建国の精神として「平等」が歌われてきたため、これまで階級というテーマでのアメリカ文学での議論はほとんどされてこなかった。今回の研究では、従来の解釈では見えなかった作品の新しい発見を提示し、結果、さまざまな要因で構築されていく階級格差が、実は、アメリカ社会の抱える根底的な問題であることを論証する。具体的には、アメリカの階級を作り出す要因として、「産業資本主義」「人種やエスニシティ」「ジェンダー」そして「地域性」の4つとし、それぞれの観点から作品へアプローチし、新たな作品解釈を生み出している。

研究成果の概要（英文）：

This research reveals that class is one of the most important themes in American literature, by a close analysis of the literary works by the American major writers from the middle of the 19th century. This theme has rarely been dealt with as the key factor in American literary studies, mainly because America has been believed to be a classless society where “All men are created equal,” as proclaimed by the Declaration of Independence. In this research, four factors are proposed as the significant elements to create class in American society: 1)Capitalism, 2) Race and Ethnicity, 3)Gender, and 4)Region. This unique literary approach has demonstrated the new phase of American literary works.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏

キーワード：アメリカ文学、階級、人種、資本主義、格差社会

1. 研究開始当初の背景

次の2点が、本研究の主な土台となるものである。

(1) マイケル・ギルモア著『階級を再考する』本研究のスタートでもあり同時に最も基盤となる研究は、米国マサチューセッツ州ブランダイス大学のマイケル・ギルモア教授の研究である。中でも、その著『階級を再考する』に彼の研究が集約されている。彼は、以下のように階級というテーマがアメリカ文学において非常に重要な視点であるにもかかわらず、いまだに死角になっていると論じている。「ジェンダーと人種は、アメリカ文学史の中心へ適切に復権が果たされた。(中略)だが、こと階級に関しては、アメリカの状況は、全く逆であった。この国の過去には、階級といったものはなく、ジェンダーや人種と違い、存在すらしないという説を、アメリカ人は長い間、当然視してきたのである」(235-36)

2008年5月、マイケル・ギルモア氏が来日し、広島大学において開催された日本英文学会全国大会の特別講演と、「広島大学エスニック研究会セミナー」において、講演を行った。講演後、氏と話す機会を持ち、本テーマについて貴重なアドバイスを頂いた。それ以後、氏は、私の研究の助言者として支援してもらった。

(2) 田中久男監修・早瀬博範編著『アメリカ文学における階級—格差社会の本質を問う』(英宝社出版、2009)

九州アメリカ文学会(2007)の特別講演において、田中久男教授(当時、広島大学教授)が、「アメリカ文学と階級—フィッツジェラルド、フォークナー」という題目で発表された。教授は、「アメリカ文学研究において、階級という視点はこれまでなかった。研究の盲点である」という刺激的な講演を行った。その講演を基盤として、田中教授の監修のも

と、アメリカ文学を「階級」という視点で見るとどうなるのかという目的で階級格差をテーマにした作品の洗い出し、読み直しを試みることにし、広島大学エスニック研究会において定期的に会合をもち発表会を行なってきた。その成果を申請者が編者として本書にまとめ出版した。

本書は、日本で初めて「階級」という視点を中心に据えアメリカ文学を論じたもので、本研究の土台となるものである。本書はすでに学会等の書評などにも取り上げられ、その斬新な視点が評価されている。しかしながら、「階級」が統一テーマにはなっていないが、各作品におけるその定義や批評理論や分析法には統一性がなく、さらに取り扱われた作品の選択の広がりにおいても、いまだ不十分な点がある。本書を土台として、階級に関する文学理論を確立し、一貫した観点より、さらに深めた成果をこの3年間で上げることを目的としたものである。

2. 研究の目的

アメリカ文学研究において、人種・ジェンダー・文化からの分析はこれまで多くの成果を上げてきたが、「階級」という視点からのアプローチはほとんどない。それは「自由と平等」を標榜するアメリカに「階級」などないという思い込みがあったからである。しかし、経済格差、人種差別を始め、実はアメリカはヨーロッパとは異なる意味で明白な「階級社会」である。

本研究は、アメリカの文学において、階級というテーマがどのように扱われてきたか、更にもそこから見える作家の階級意識の解明を目的としている。従来の解釈では見えなかった作品の新しい発見を提示するとともに、さまざまな要因で構築されていく階級格差が、実は、アメリカ社会の抱える根底的な問題であることを論証する。

3. 研究の方法

第一に、文学作品を「階級」という視点から読み直すために有効な批評理論の構築を行なう。そのためには、アメリカにおける「階級」の定義をする必要がある。次に、その批評理論に基づき、作品の系統的な分析と解釈を通して、アメリカ文学全般において、階級という視点がいかに作品解釈に有効であるかを立証する。「階級」という視点を導入することで、作品の新たな面に光を当て、さらに作家の階級意識を解明したい。

本研究の推進のためには、アメリカ社会の情

勢の分析が不可欠である。とりわけ階級形成の要因となるものを「産業資本主義」「人種やエスニシティ」「ジェンダー」「地域性」と考え、そのような視点から、アメリカにおいて、資料の収集と分析を行った。

本研究は、アメリカ文学の主要作品を階級という新しい概念による読み直しを試みたものである。アメリカ社会は、階層化されたヨーロッパ諸国とは違って、歴史的に中産階級が優勢であり、比較的均質な社会だと考えられてきたが、実際は世界最大の資本主義国で、しかも多民族国家であり、歴史的に見てさまざまな要因によって「階級格差」が存在し、深刻な問題を現出している。本研究では、このような現象が19世紀・20世紀の主要作品でどのように描かれ、また各作家たちが、どのような「階級意識」を持っていたかを解明しようとするものである。

アメリカ文学における「階級」を4つの観点から論じることで、アメリカが抱える「階級」の問題の根源を探求した。もっとも「階級」は、例えば収入と人種が相互にからみ合いながら形成されたりするものであるので、現実にはさまざまな要因が複雑に重なり合い形成されるものであるから、以上は便宜的な分類にすぎず、各要素は相互に関連する。

研究を進めるにあたっては、常に、ブランダイス大学マイケル・ギルモア教授、コロンビア大学ゲイリー・オキヒロ教授、そして福山大学田中久男教授のアドバイスを得ながら、調整し進めた。

4. 研究成果

本研究により、アメリカの階級を構成する要素を「産業資本主義」「人種、エスニシティ」「ジェンダー」「地域性」とすることで、アメリカの階級の特徴が現れることが分かった。さらにそれを切り口として作品を分類することで、アメリカ文学において、「階」というテーマがいかにか有効であるかを立証できた。これらの成果は今後随時、論文等で発表する。

「産業資本主義による階級形成」

アメリカは資本主義をリードし、それによって栄えた国家である。従って、お金による格差や差別は歴然と存在するし、時代を経るごとにその格差は広がりつつある。それでも、お金による格差は勤勉さや努力による結果

であるのだから、差別にはならないという風潮によって、お金による格差は見て見ぬ振りをされていた姜がある。アメリカのほとんどの作家は、産業資本主義がいかにか人間性をゆがめ、社会のひずみを生み出しているかを追っている。具体的には、マークトウェイン、クレイン、ドライサー、スコット・フィッツジェラルド、アーサーミラー、サリンジャーの作品を対象とした。

「人種・エスニシティによる階級形成」

多民族国家アメリカでは、人種やエスニシティの差異が「階級」を形成する。この分野における研究は盛んであるが、「階級」とどのように結びつくかが課題である。WASP中心のアメリカ社会で、アメリカの夢を求める競争に出遅れたマイノリティの当時の窮状は厳しい。黒人差別の問題は、アメリカの問題と言えるほど深刻な問題であるが、他にも、ネイティブ・アメリカン、ユダヤ系アメリカンなど、マイノリティと位置づけられ下層階級と位置づけられている人々がいる。さらに、マイノリティな人々は、同時に経済的にも弱者であることが多く、二重の意味で社会の下層部に押さえ込まれることになる。

特に、以下の4つの人種に分けて、アプローチを行った。

- アフリカ系アメリカ人
トニー・モリスン、アリス・ウォーカーの作品。
- ネイティブ・アメリカンの作品
レスリー・シルコウの作品に関して行う。
- ユダヤ系・アメリカ人
ポール・オースターの作品

「ジェンダーによる階級形成」

このような複雑な社会構造に、さらにジェンダーが絡むことになったらどうなるか。白人優越主義という人種のイデオロギーに縛られた南部においては、特にアフリカ系アメリカ人女性は、まずアフリカ系アメリカ人ということで差別の対象とされ、さらに家父長制の強い風習を反映した結婚生活において、夫に社会的不満・性欲のはけ口としての扱いを受け、逆待される境遇にある。階級は、ジェ

ンダーという概念とも複雑に絡み合う。ケイト・ショパン、モリスン、アリス・ウォーカーでは、黒人女性の問題を扱う。

「地域性による階級形成」

ジェンダーや人種の外に加えて、階級形成において無視できない重要な要因は、地域の特異性である。例えば、資本主義経済活動の盛んな北部では、階級は経済格差に還元される問題、つまり、個人の努力と運によって、そうした格差を埋め合わせることができる問題として扱われている。しかし南部では、階級はほとんどカースト制度のように構造化されていて、住民の精神や価値観を縛り、堅固なヒエラルキーが出来上がっている。マーク・トウェイン、ドライサー、フィッツジェラルド、フォークナーの作品

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

(1) “‘watching pennies has healed more scars than jesus’ : Love and Money in *The Sound and the Fury*” 『九州アメリカ文学』 53(2013) 1-12. 査読有

(2) 「文学、労働、アメリカ」書評、89(2012) 『英文学研究』 158-162。査読有

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計1件)

(1)伊藤紹子監修『カンターナラティブから語るアメリカ文学』2012、372ページ。音羽書房鶴見書店。

〔産業財産権〕

○出願状況 (計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

早瀬 博範 (HIRONORI HAYASE)

佐賀大学・文化教育学部・教授

研究者番号：70173052